

報告事項ク

平成25年度第4回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成25年度第4回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成26年1月17日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

## 平成25年度第4回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成26年1月17日  
高等学校課

- 1 日時 平成25年12月19日（木） 午前10時～正午
- 2 場所 白兔会館
- 3 参加者 別紙のとおり（委員：10名）
- 4 議事 次代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について
- 5 委員からの主な意見

答申の項目案の次の柱について審議を行った。

- 2 県人口や生徒数の減少に対応した高等学校の在り方
  - (1) 生徒数減少の中で高い教育力を発揮できる高等学校教育のシステムづくり
  - (2) 魅力と活力にあふれる高等学校教育の制度づくり

### （人材育成の在り方）

- ・高校では、基礎は何かということをつかえた上で、生徒にその基礎をしっかりと教え、将来学び続けることのできる資質を養成する必要がある。
- ・社会の多様化に対応できる生徒を育成するために、自ら主体的に何かに関わって課題を見つけたり、その解決策を考えていくような探究活動が必要である。

### （生徒の進路と高校の学科）

- ・中学生にとって、学科等の選択肢があるということは進路選択の面からも非常に大切なことなので、高校の学科を減らすことは避けてほしい
- ・中学生や高校生の選択肢を多様にして、個々の可能性を広げるためには、その選択の時期を遅らせることが、今後の日本や社会にとって必要になってくると思う。

### （生徒減への対応）

- ・将来の定住も考慮して、教育を人口を増やすための一つ的手段として考えていくことが必要
- ・今後の生徒数の減に対して、均一にどの学校からも学級を減じるのではなく、それぞれの学校の教育内容に応じて定員を変えてはどうかと考える。例えば、講義型であれば人数が多くてもよいが、実習が多い学校は少人数でもよいと思う。

### （学校の特色づくり）

- ・今後、学校が小規模になっていくことが予想されるが、存続していくためには、それぞれの学校がミッションを持ち、どういう教育をするのか、どのような特色があるかが明確にされる必要がある
- ・各学校がそれぞれ切磋琢磨することも大切だと思うので、これ以上学校数を減らしてほしくない。また、地域の学校もその地域にとって非常に大切な役割を背負っているので、特色のある学校になってほしいという思いはある。

鳥取県教育審議会学校等教育分科会 出席者一覧

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育審議会 学校等教育分科会 委員	池 内 勝 彦	鳥取県高等学校PTA連合会長	
	石 操	日吉津村長	欠席
	門 脇 由 己	米子北高等学校長	
	栢 木 隆 志	米子市立福米中学校長	
	小 枝 達 也	鳥取大学地域学部教授、附属小学校長	
	高 橋 千 枝	鳥取大学地域学部地域教育学科准教授	
	長 尾 志 保	鳥取県PTA協議会ブロック理事	
	松 本 清 治	県立倉吉西高等学校長	
	丸 山 智 子	県立倉吉養護学校長	
	森 田 清 子	北栄町北条こども園長	
	矢 部 敏 昭	鳥取大学副学長	
	山 口 朝 子	鳥取市教育委員	欠席
	山 本 正 人	鳥取市立若葉台小学校長	欠席